平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ６７ ※記入不要	提案機関名	湘南地域農業改良普及センター

要望問題

施設キュウリにおける減農薬・減化学肥料栽培体系の確立

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

近年、減農薬・減化学肥料栽培に対する関心が高まり、知事との協定締結を行う団体やエコファーマーの申請者も増加し始めています。

しかし、エコファーマーの認定基準となる栽培基準が現実に栽培可能であるかの実証がなされていないものが多く、「環境保全型農業栽培の手引き」及びエコファーマーの認定基準による栽培試験が必要であると考えられる。

特に県として手引きに掲載した作物やエコファーマーの基準を定めた作物については、現地試験を含めた試験研究機関による実証試験が必要であると考えられる。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所

部　　署：生産技術部

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

環境と調和した環境保全型農業生産技術の体系化、実証研究

(4)施設キュウリにおける環境保全型栽培技術の実証

対応の内容等

施設野菜の中でも特に肥料、農薬使用量が多いキュウリにおける環境保全型栽培体系の確立は重要と考えています。

平成 15 年度より、上記研究課題において所内プロジェクト研究を開始いたしました。

本プロジェクトは化学肥料ならびに農薬使用量低減を主目標とするもので、半促成栽培については、「環境保全型農業の手引き」の防除体系に準拠、抑制栽培については新たな防除体系案を作成し、鋭意実施中です。また、平成 17 年度には 1 ～ 2 カ所の現地試験を予定しています。研究遂行にあたっては現地試験等、ご協力くださるようお願いします。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	